

平成 20 年度

「学生地域参画プロジェクト」報告書

茨城大学長 殿

① 代表者	所属・学年	理学部理学科 地球環境科学コース 4年
	ふりがな	おかもと たかゆき
	氏名	岡本 高幸

本年度交付を受けた支援経費について、下記のとおり報告いたします。

②プロジェクト名
茨城県における地域振興を目指した地質情報活用プロジェクト～ジオパーク設立を目指して～
③活動分野
① 教育・研究 2 ボランティア 3 課外活動④ 地域交流 5 国際交流 6 その他
④プロジェクトの地域連携先
対象地域：茨城県内各地域（水戸千波湖周辺地域・ひたちなか平磯周辺地域・大子袋田周辺地域・北茨城五浦周辺地域・筑波山～霞ヶ浦周辺地域） 連携先：グリーンふるさと振興機構、水戸市、水戸市教育委員会、水戸市商工会、水戸市観光協会、ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会、ひたちなか市商工会、ひたちなか市観光協会、ひたちなか海浜鉄道、大子町、大子町教育委員会、大子町商工会、大子町観光協会、北茨城市、北茨城市教育委員会、北茨城市商工会、北茨城市観光協会、つくばグランドホテル、筑波温泉ホテル、つくば山ホテル青木屋、つくばエキスポセンター、関東鉄道、産業技術総合研究所 地質標本館、かすみがうら市郷土資料館、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場、(株)ジーエスアイ、(株)サイボックステクノロジー
⑤プロジェクトの実施概要
[プロジェクトの背景と目標] 2008年10月、国土交通省に観光庁が設立されることに代表されるように、現在、日本において「観光立国」化を目指した具体的活動が始まっている。その中で「ジオパーク」は世界遺産に並ぶものとして注目を浴びている。これは科学的に重要な地質遺産を資源とした自然公園であるが、その地域の文化、教育、観光などの振興をとおして地域社会の活性化を目指している点で、いわゆる自然公園とは異なっている。現在、複数の自治体が名乗りを上げているが、今後一層の盛り上がりを見せることは確実である。 地質情報は日本中どこにでも存在する。したがって、従来一般的な観光資源を持っていなかった地域でも地質情報を核にして観光開発を行うことが可能である。一方、従来すでに観光資源のあった地域においても、ジオツーリズムなどを通して、それを豊かな自然とリンクすることにより総合的な観光開発ができる。本プロジェクトは、従来観光に利用されてこなかった地質情報を観光情報化することで地質学を生かした地域の活性化支援をめざす。さらに、地質情報を介して茨城の成り立ちを知ってもらい、地域の方々の教養教育や防災意識向上に役立ててもらおうとともに地質情報の重要性と有用性を広く認識してもらおうことも目標とする。
[計画と連携の方法] 本年度は、昨年度作成した筑波山・霞ヶ浦周辺地域に引き続き、新たに千波湖周辺地域・平磯周辺地域・袋田周辺地域・五浦周辺地域の4箇所において地質観光マップを作成する。地質観光マップの作成に当たっては、メンバーが独自に情報を収集するほか、ミュージアム

パーク茨城県自然博物館、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、大子町教育委員会ほか各町村教育委員会等からも情報の提供と協力を依頼する。収集した地質情報は観光情報化し、地質観光マップを作成する。対象は一般の観光客や地域住民とし、内容が難解すぎずかつ豊富な情報を盛り込めるようにする。紙面に載せきれない情報はユビキタス技術を利用し携帯電話で読めるようにする。

完成した地質観光マップは各地域の観光拠点各所に配布を依頼、一般観光客の方々に利用していただく。また、宣伝用ポスターを作成し県内外に宣伝する。

本年度の新しい試みとして、地質観光マップを用いたジオツーリズムを行う。10月に袋田周辺地域、11月に筑波山を予定。このツアーへの参加者は一般からの募集を予定している。それぞれ駅或いはバス停集合とし、歩いて1日程度のツアーとする。

[期待される成果]

このプロジェクトにより作成した地質観光情報は、地域住民の防災意識向上や生涯学習のほか、観光客誘致による地域活性化も期待できる。また、茨城ジオパーク設立の礎になるものと期待できる。

⑥プロジェクトの成果(1,000字以内、別紙可)

本プロジェクトの今年度の活動の柱は、1)地質観光マップの製作・配布、2)ジオツアーの企画・実施、3)ウェブサイトによる情報発信である。

まず1)では、文献調査、現地調査を独自に行い、それにより得た地質情報から、地域の地質の見所を紹介するパンフレットとして「地質観光マップ」を製作した。今年度は「水戸・千波湖」、「袋田の滝」、「五浦海岸」、「平磯海岸」の4地域で新たに製作した。また、昨年度作成した地質観光マップ「筑波山」、「霞ヶ浦」について、情報を更新、改訂した。これら6つの地質観光マップについて、市や町、企業・団体等より後援を頂き、配布に協力して頂いた。

次に2)では、今年度の新たな活動である「ジオツアー」を千波湖、袋田の滝で行った。これは、一般の方々を対象とし、本プロジェクトメンバーが地質の見所を案内するものである。

さらに3)では、ウェブサイトを立ち上げ、プロジェクトの活動報告、地質観光情報の提供、さらに地質観光マップをダウンロードできるようにした。

特筆すべき成果としては、次の3点が挙げられる。

1、地質観光マップを新たに4箇所で作成した。茨城県内には地質学的に魅力的な場所が多数存在する。地質観光マップの作成はそれら魅力的なサイトを観光活用する上で重要であり、ジオパーク設立の礎として重要である。

2、地質観光マップの製作・配布のみでは得られにくかった一般の声を、ジオツアーを行ったことで、直接得ることができた。参加者は新聞、チラシ、ウェブサイトにより広く募集し、参加して頂いた多くの方々からは、「楽しかった」、「さらに興味を持った」、「機会があればまた参加したい」といった声を頂いた。

3、地球惑星科学関連学会2008年合同大会、日本地質学会第115年学術大会(秋田大会)、水戸市環境フェスタ、サイエンスアゴラ2008といった各イベントにおいて、プロジェクトの活動を発表し、広くアピールすることができた。特に地質学会では活動が高く評価され、優秀ポスター賞を頂いた。サイエンスアゴラではブース展示中多くの方が訪れ、様々な意見を得られたのみならず、地質標本館やつくばエキスポセンターとの連携のきっかけとなった。

今年度の活動により、「地質観光マップ」を製作し、茨城の魅力を「地質」という新たな視点から見るためのツールを増やすことができた。さらにジオツアーや各イベントへの参加を通して、多くの方々と直接交流できたことで、一般の方々には「地質」の魅力を感じてもらうことができ、プロジェクトとしては、今後の発展に向け、多くの参考になる意見を頂くことができた。

⑥プロジェクト参加者（代表者を含む。別紙可）

氏名	所属（学部・学科、大学院・専攻名）			学年
岡本 高幸	理学部	理学科	地球環境科学コース	4年
春日 菜季	理学部	理学科	地球環境科学コース	4年
細井 淳	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
神 直也	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
滝本 春南	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
小畑 大樹	理学部	理学科	学際理学コース	3年
図子田 香織	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
綿引 麻衣子	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
松島 秀寛	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
小山 剛平	理学部	理学科	地球環境科学コース	3年
椎名 高裕	理学部	理学科	地球環境科学コース	2年
花川 和宏	理学部	理学科	地球環境科学コース	2年
伊藤 太久	理工学研究科	地球生命環境科学専攻		M1
及川 敦美	理工学研究科	地球生命環境科学専攻		M1
松原 典孝	理工学研究科	宇宙地球システム科学専攻		D3